



新春のご挨拶



副市長、教育長、市立病院長から市民の皆様へ、
「2022年の抱負」を申し上げます。

副市長 井上 昇

昨年は、新型コロナウイルスの影響により、断続的に緊急事態宣言が発出されるなど、市民の皆様におかれましては、不安を感じながら過ごされた一年だったのではないかと思います。本市では、一日でも早く平穏な日常生活を取り戻せるよう、「大和モデル」によるワクチン接種を速やかに進めるとともに、市内事業者に対する市独自の臨時給付金制度を創設するなど、さまざまな対策に取り組んでまいりました。



市民の皆様が、心身ともに健康な一年を過ごしていただけるよう、コロナ対策はもちろん、引き続き各種施策を着実に進めてまいります。

副市長 小山洋市

昨年も、新型コロナウイルスへの対応が求められる一年となってしまいました。市民の皆様を楽しみにしていた大和市民まつりも中止となりましたが、ホームページを利用した代替企画「大和市民まつりオンライン」の実施により、多少なりともまつりの雰囲気を感じていただけたことと存じます。また、市民の皆様の利便性向上を目指して、小田急中央林間駅の新たな東側改札口整備への支援や自転車走行空間の整備などを実施いたしました。今後も市民の皆様が安心・安全にお過ごしいただけるよう、より一層取り組んでまいります。



教育長 柿本隆夫

一昨年に引き続き、昨年も学校現場では「学びを止めない」を合言葉に、感染対策を徹底しながら教育活動を進めてまいりました。そうした中で導入した一人1台端末は、学びの可能性を大きく広げています。もはや端末の活用なしに授業は考えられず、まさしく新しい学びのスタイルが生まれたといっても過言ではありません。今年も端末を使って、子どもたちがいつでもどこでも学びにアクセスできる環境づくりを進めてまいります。



早くコロナ禍が終息し、思いっきり外遊びや、体験的な学習をさせてあげられることを願っています。

市立病院長 矢尾正祐

2年近くも続いている新型コロナウイルス感染症ですが、ワクチン接種をはじめとしたさまざまな感染対策が功を奏して、落ち着きつつある気配です。しかし世界に目を向けると、まだまだ油断はできません。市立病院では本年もコロナから目を離さず、いざというときには直ちに対応できる体制を維持いたします。さらにアフターコロナを見据えて、引き続き急性期病院としての機能の充実を進めるとともに、地域の医療機関ともしっかりと連携しながら、市民の皆様の健康を支えてまいります。

